

午後Ⅰ試験

問1

問1では、消耗品の集中購買化とそれに伴う業務システムの導入を題材に、フィット&ギャップの分析と機能要件の整理について出題した。全体として正答率は平均的であった。

設問1は、機能名の正答率は高かったものの、金額の正答率は平均的であった。請求書の請求金額との一致を確認するために、どのような条件で金額を集計して確認するかを問う問題であったが、条件の一部が記載されていない解答が多かった。本文中の記述からデータ集計機能を利用した金額の集計方法をイメージして、正答を導き出してほしい。

設問2は、機能名の正答率は平均的であったものの、理由については正答率がやや低かった。業務上支障を来すと判断した機能を問う問題であったが、機能名は正答であるものの、当該機能を利用することが業務上なぜ問題となるのかを、本文中の記載から正しく理解できていない解答が散見された。

設問3(2)は、正答率が低かった。A市規定類の改正を行わないことによる運用上の制約を問う問題であったが、発注予定数量の調整や検収に関することを理由としている解答が散見された。本文中に記載されているA市規定類に基づく運用上の制約を正しく理解した上で、正答を導き出してほしい。

問2

問2では、営業活動を支援するシステムの新規構築を題材に、新システムの機能要件とデータ移行要件を定義することと、必要となる機能概要を整理することについて出題した。全体として正答率は平均的であった。

設問1は、正答率が低かった。営業活動の流れを正確に理解できていないと思われる解答が散見された。本文中に記載されている商談状況を丁寧に読み取って正答を導き出してほしい。

設問3(2)は、正答率は平均的であった。複数のシステム・ツールが登場する問題にもかかわらず、どのシステムのことを述べているのかを明確にしていない解答が散見された。要件を明確にするためにはどのような情報が必要となるかを意識して、正答を導き出してほしい。

設問4(1)は、正答率がやや低かった。顧客の範囲を適切に限定できていない解答が散見された。実業務においては仕様の誤解につながりかねないので、解答に当たっては、必要十分な表現を心掛けてほしい。

問3

問3では、不動産売買仲介システムの再構築を題材に、新システムへの要望に基づいた情報システムに求められている機能の設計について出題した。全体として正答率は平均的であった。

設問1は、正答率が低かった。現在の業務とシステムの概要を踏まえ、新システムでどのように営業担当者を割り当てるかを問うたにもかかわらず、現在の業務の内容を解答した受験者が多かった。現在の業務を正しく把握した上で、システムでどのように設計するかを考えて、正答を導き出してほしい。

設問4(1)は、正答率がやや低かった。物件ステータスの値ではなく“売買契約が締結された状態”と成約の説明を誤って解答した受験者が多かった。本文中に記載されている物件ステータスの値の遷移を正しく理解した上で、正答を導き出してほしい。